

東京大学 × 三重県 × AI × 電力

フレイル検知 実証実験 成果報告会

日本の健康寿命を
延伸していくためには
「フレイル検知」が鍵を握る！

3.22 MON

時間 17:00-19:00

場所 ユマニテクプラザ
〒510-0074 三重県四日市市鷺の森1丁目4-28

現地とzoomの同時開催

主催 介護予防に向けたAI・データ活用研究会
※三重県東員町での本実証実験の実施団体です

協力 JDSC | necolico

Schedule

- [1] オープニング/ ご挨拶
越塚登 (東京大学大学院 情報学環 教授)
- [2] 実証実験の内容と成果報告
- [3] パネルディスカッション 1
水谷俊郎 (三重県東員町 町長)
飯島勝矢 (東京大学 高齢社会総合研究機構機構長・未来ビジョン研究センター 教授)
西村訓弘 (三重大学 副学長・教授)
ファシリテーター: 越塚登 (東京大学大学院 情報学環 教授)
- [4] ご挨拶
三重県 鈴木英敬知事 (ビデオメッセージ)
- [5] パネルディスカッション 2
中部電力株式会社
株式会社三井住友銀行
RIZAP株式会社
※調整中
ファシリテーター: 加藤エルテス聡志 (株式会社JDSC CEO)
- [6] フレイル対策コンソーシアム発足に向けて
- [7] 閉会のご挨拶
松原宏 (東京大学 地域未来社会連携研究機構 機構長・教授)

日本の健康寿命を延伸し、 豊かな高齢化社会を目指して

フレイル(虚弱)状態は

要介護の一手手前の状態ですが、

日常生活を見直すなどの正しい対処をすれば、

フレイルの進行の抑制や

健康状態に戻すことが可能です。

よって、いかに早く特定し改善するかが

大きな鍵となります。

三重県東員町での実証実験により、

電力データから、AIの解析による

フレイル状態の判定の実現可能性を確認できました。

世界初のこのアプローチは特許を取得。

この試みを活かして、どのように社会実装し、

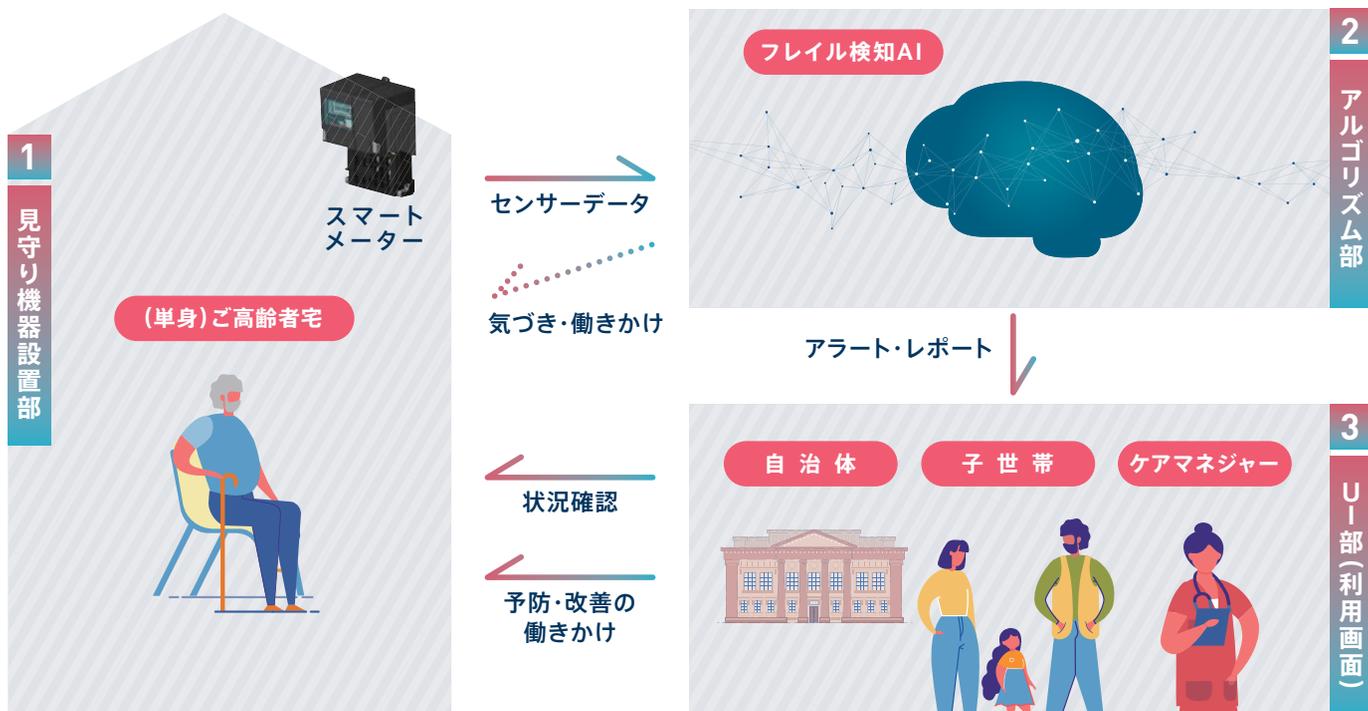
持続的な健康社会を作っていくのか。

今回の実証実験の成果報告と共に考えます。

Frailty(虚弱) ⇒フレイル

フレイルは「虚弱」を意味する英語「frailty」を語源としてつくられた言葉です。加齢とともに心身の活力(運動機能や認知機能等)が低下し、複数の慢性疾患の並存などの影響もあり、生活機能が障害され、心と身体の動きが弱くなる状態ですが、一方で適切な介入・支援により、生活機能の維持向上が可能な状態のことを言います。

東京大学との共同研究開発で、ライフラインデータを用いたフレイル検知のアルゴリズムを開発。



申込み方法

QRコードまたは下記URLよりお申し込みください。

<https://forms.gle/G7C1USNcRc5tg3SAA>

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です



問い合わせ先
frailty-prevention@jdsc.ai